

卒業研究

科目名	卒業研究Ⅰ	開講時期	3年 通年
担当教員	鈴木武幸	単位数	4
テーマ	障害者自立支援法、医療福祉、精神保健福祉、スクールソーシャルワーク、その他		
授業の概要と目的	<p>障害者の自立、医療福祉、精神保健福祉、スクールソーシャルワーク等について、その支援方法を研究していく。また、臨床心理系のバウムテスト（樹木画）についてもその活用方法を研究していく。</p> <p>卒業研究Ⅰでは、各分野の文献・資料等を検討しながら自分で取り組むテーマを探っていく。</p> <p>テーマに沿った取り組みを行いながら卒業研究Ⅱにつなげるために、研究論文としてまとめを行う。</p>		
授業計画	<p>前期：基本文献の購読を行いながら、テーマについて検討を行う。 テーマに沿った計画を検討し、それらへの取り組み、必要な調査活動を行う。</p> <p>後期：それぞれテーマに沿った問題や今後の課題を整理し、具体的な支援方法を検討していく。その結果を小論文にまとめる。 卒業研究Ⅱの取り組みの一部となるよう、研究論文としてまとめる。</p>		
テキスト	テーマに沿って、適宜支持する。		
参考文献	同上		
成績評価の基準・方法	研究に対する取り組みの姿勢	20%	
	研究発表	40%	
	研究内容および成果	40%	
質問・相談の受付方法	研究室（要、アポイント）		
履修要件	将来、援助職を目指し、社会福祉士および精神保健福祉士を志望する科目履修生		
特別学生の履修の可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】		
その他			

科目名	卒業研究Ⅰ	開講時期	3年 通年
担当教員	清水将一	単位数	4
テーマ	福祉教育論		
授業の概要と目的	今日、学校における福祉教育から地域における福祉教育へと転換期を迎えている。そこで福祉教育の役割や課題について実践に学びながら、新たなプログラム開発を視野に入れた（素材論・方法論を中心に）研究を行なう。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 福祉教育の理念と構造 2. 福祉・教育改革の動向と福祉教育実践の展開 3. 福祉教育実践と教育評価 4. 総合学習と福祉教育 5. 高齢者の生活理解と福祉教育 6. 障がい者の生活理解と福祉教育 7. 地域における子育て支援と福祉教育 8. 福祉サービスと福祉教育 9. 地域福祉計画と福祉教育 10. 福祉教育の歴史 11. 地域福祉と福祉教育 <p>これらの事項についてグループで文献研究と事例研究を中心に進める。また今後の個人研究のテーマを決めていく。フィールドワークも取り入れた研究にしたい。</p>		
テキスト	福祉教育のすすめ～理論・歴史・実践～ 阪野貢監修、ミネルヴァ書房		
参考文献	テキストの巻末に挙げられている文献を適時参考にすること		
成績評価の基準・方法	日ごろの研究態度 グループ発表の審査		
質問・相談の受付方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. オフィスアワーを利用 2. 都合がつけばいつでも研究室で対応します 		
履修要件			
特別学生の履修の可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】		
その他	ゼミには出る。欠席すると付いて行けなくなる。		

科目名	卒業研究 I	開講時期	3年 通年
担当教員	藤本 昌樹	単位数	4
テーマ	卒業論文を書くための知識を身につけ、テーマを考える。		
授業の概要 と目的	<p>本演習は、子どもや、その家族、さらには、それらを取り巻く環境を理解することを目的とすると共に、子どもの問題（と呼ばれる）行動への援助のあり方について理解を深め、各人の卒業論文のテーマへとつなげていくことを目的とする。</p> <p>基本的に、本演習は卒業論文作成の準備の授業の為、各人の関心領域に沿った形で演習が進められるので、積極的に文献講読し、それをまとめて発表していくことが求められる。</p>		
授業計画	<p>前半では、卒業論文作成のための基本的な知識、共通テーマを定めて文献講読を行う。後半では、各人の卒業論文のテーマに沿った文献講読を行っていく。卒業論文は、乳幼児期から大学生くらいを対象とした研究で、自らが関心を持ったテーマを絞って行ってほしい。</p> <p>また、適宜、臨床心理学や発達心理学、発達精神病理学に関する文献講読も行うつもりである。</p> <p>例えば、下記のようなテーマについて文献を輪読して基礎知識を身につける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発達臨床心理学（発達精神病理学的領域） ・愛着（アタッチメント）、家族関係の発達 ・心理療法（主に、ブリーフセラピーとその周辺領域を中心とする） 		
テキスト	授業で指定します。		
参考文献			
成績評価の 基準・方法	授業態度（70%）と課題達成度（30%）		
質問・相談 の受付方法	質問を受け付けるので積極的に質問をし、内容の理解に努めてほしい。 その他、随時質問は受け付ける。		
履修要件			
特別学生の 履修の可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】		
その他			

科目名	卒業研究 I	開講時期	3年 通年
担当教員	長坂和則	単位数	4
テーマ	心に病を持つ方々やアディクション問題を抱える人々の支援		
授業の概要と目的	精神保健福祉領域に関心を持ち、より専門性を高めるために理解を深め、専門職としての知識を身につける。卒業論文の作成に向けてテーマを設定する。		
授業計画	<p>【前期】</p> <p>第1回 オリエンテーション（ゼミの進め方や内容を説明）</p> <p>第2回 興味関心のあるものを抽出</p> <p>第3回 先行研究の分析</p> <p>第4回～第7回 文献検索の仕方</p> <p>第8回～第12回 研究テーマの設定</p> <p>第13回～第15回 研究の方法</p> <p>【後期】</p> <p>第16回～第21回 研究の方法 発表</p> <p>第22回～第26回 研究テーマの再検討</p> <p>第27回～第30回 研究計画書の作成（卒業研究Ⅱに向けて）</p>		
テキスト	ゼミの中で随時紹介する		
参考文献	ゼミの中で随時紹介する		
成績評価の基準・方法	研究の内容と取り組み（50）、出席（50）に配分し評価する		
質問・相談の受付方法	講義終了後および空き時間において対応する。研究室は 104		
履修要件	特に設けません		
特別学生の履修の可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】		
その他			

科目名	卒業研究Ⅰ	開講時期	3年通年
担当教員	橋木てる子	単位数	4
テーマ	発達心理学、社会心理学、臨床心理学に関する基礎知識を身につける		
授業の概要と目的	学生が興味あるテーマについて、自主的に学ぶ機会とすることを目的とする。卒業研究Ⅱを希望する場合は、卒業研究のテーマを見つけることを目的とする。		
授業計画	<p>下記にあげた2通りのプランのうち、学生の希望するものを行う。</p> <p>初回の集合時に希望を聞きます。また、一年を通してどのようなことを学びたいと思っているか、各自今までの授業内容や本などを通して考えておいてください。</p> <p>1. 専門書または論文の輪読 指定した専門書または学術研究雑誌の論文について発表担当を決める。週1回あるいは隔週1回に定期的に集合して、担当者の発表を聞き、全員でディスカッションをする。この場合は、毎回の出席と担当者は責任を持って発表する、ことが求められる。</p> <p>2. 年2回の発表会 半年かけて各自のテーマについて調べ、まとめたものを発表する形式である。発表会は定期試験期間の終わりに日時を設定する。学生は①テーマの選択、②発表に使う文献の選択、③発表要旨の下書きの3段階で各自、個別に指導を受けに来ることになり、毎回集合する必要はありません。 なお、前期と後期でテーマが変わってもかまいません。</p>		
テキスト	必要に応じて指定		
参考文献	必要に応じて指定		
成績評価の基準・方法	要旨と発表内容、出席（自発的に指導を受けに来る態度）から評価する		
質問・相談の受付方法	連絡の上、研究室で受けつける		
履修要件	特になし		
特別学生の履修の可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】		
その他			

科目名	卒業研究 I	開講時期	3年 通年
担当教員	吉永 洋子	単位数	4
テーマ	研究の一步を踏み出そう		
授業の概要と目的	<p>(目的) 大学4年間の集大成として、卒業研究をまとめることを目標にしている。</p> <p>(概要) 前期は研究の方法を学び、後期はテーマを探し、次年度につなげる。</p>		
授業計画	<p>1 オリエンテーション</p> <p>2～15 テキスト『社会福祉研究法』を講読し、「研究」方法を学ぶ</p> <p>16～30 各自のテーマを決定し、予備研究を進め、発表をしていく</p>		
テキスト	前期：岩田正美他編『社会福祉研究法』(有斐閣アルマ)		
参考文献	講義中に適宜紹介する。		
成績評価の基準・方法	<p>授業態度 70%</p> <p>予備研究の内容 30%</p>		
質問・相談の受付方法	<p>質問については、オフィスアワーなどを積極的に利用してください。</p> <p>相談については、予約を優先するため、yosinaga@suw.ac.jp へ連絡してください。</p>		
履修要件	特に設けないが、社会福祉もしくは精神保健福祉に関心を持っていること		
特別学生の履修の可否	<p>科目等履修生【不可】</p> <p>聴講生【不可】</p>		
その他	楽しくためになる演習を目指しています。強制ではありませんが、精神保健福祉学会などへの参加も検討しています。		

科目名	卒業研究 I	開講時期	3年 通年
担当教員	張 昌鎬	単位数	4
テーマ	①高齢者ニーズ、虐待、介護予防などの高齢者に関する分野 ②障害者の自己決定や社会参加などの障害者に関する分野 ③貧困者の自立支援に関する分野 ④ケアマネジメントや地域包括支援センターなどに関する分野		
授業の概要と目的	目標：最近、利用者のニーズの多様化によって、福祉現場では、質の高い福祉人材をもとめている。このような状況の中で将来与えられたテーマを自分一人で資料を集め、分析し、まとめることが可能になるレベルまでを目標にする。 概要：卒業研究Ⅱの研究報告書作成の直前までの準備		
授業計画	① 前期は教員が文献を提示し、全員が読み、順番に発表する。 その後は、学生が自分の興味ある分野の文献を読み発表する。 ② 後期は、研究テーマの設定、文献を探す方法、研究の目的や方法などに関して個別的に指導する。		
テキスト	テキストはないが、必要な資料は講義中に紹介する。		
参考文献	それぞれのテーマの必要に応じて紹介や探し方法を教える。		
成績評価の基準・方法	積極性と出席		
質問・相談の受付方法	講義終了後あるいはオフィスアワーを利用する。		
履修要件	なし		
特別学生の履修の可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】		
その他	積極的に授業に参加することと、自分の役割を遂行すること		

科目名	卒業研究Ⅰ	開講時期	3年 通年
担当教員	加藤あけみ	単位数	4
テーマ	仕事と生活について考える ～ワークライフバランスとは～		
授業の概要と目的	<p>近年、日本の労働市場では雇用・就業形態の多様化が進んでいる。本演習では、このような社会情勢を踏まえて、労働生活と非労働時間の生活（余暇生活等）との関係を中心に、ライフイベントとしての仕事を検討する。たとえば過剰労働や感情労働、子育て支援、障害者の自立など、さまざまな課題が挙げられるが、このような課題を学習し検討することを通じて、ワークライフバランスへの認識を深めてゆく。また、上記の学習を通して、発表や討論の仕方の習得、文献の読み方とレポートの書き方についての学習を目指す。</p>		
授業計画	<p>前期は、基本文献の講読やテーマを持ち寄って討論することにより、ワークライフバランスについて理解を深める。</p> <p>後期は、発表を中心に授業を進め、問題点の要約などを通してレポートの作成能力を養うとともに、卒業研究Ⅱに向けて調査方法および研究方法の基本的な態度を養う。</p> <p>なお、詳細な授業計画はメンバーとともに検討しながら決める。</p>		
テキスト	<p>授業開始後に指示 適宜、プリントを配布</p>		
参考文献	適宜、紹介する。		
成績評価の基準・方法	主体性をもって参加したか、という点を中心に評価		
質問・相談の受付方法	適宜、受け付ける。		
履修要件	テーマへの興味と演習への積極的な参加を基本要件とする		
特別学生の履修の可否	<p>科目等履修生【不可】 聴講生【不可】</p>		
その他	<p>お互いの個性を尊重しながら、全員が生き生きと参加できる演習を目指します。ですから、コミュニケーションを大切にしたいと思っています。欠席はもちろん遅刻は禁止。とはいえ、やむなく遅刻、欠席する場合もあるでしょう。そのときは教員あるいは友人に連絡して演習に支障のないようにしてください。</p>		

科目名	卒業研究Ⅰ	開講時期	3年通年
担当教員	相原 真人	単位数	4
テーマ	児童家庭福祉に関する総合的な研究		
授業の概要と目的	<p>児童家庭福祉とは、子どもと家族の well-being（人間社会で生活する子どもと家族が自分らしい生き方を実現できること）を保障する取組みの総体であり、その中には様々な要素が含まれているが、特に、「虐待対策（予防を含む）」「子育て支援」「要保護児童対策」は中心的なテーマであり、児童家庭福祉の原点であると同時に、今後ともますます重要になる分野でもある。このゼミでは、これら三つの主要テーマごとに数名のグループを形成。問題意識を絞り込んだ上で調査研究を実施し、最終的には、調査報告書を共同執筆して印刷・製本することを目指したい。</p>		
授業計画	<p>3年前期 上記の三つのテーマの中で、各自が特に興味関心を持ったテーマに関する文献を読み、レジュメを作成して発表することにより知識を増やし、興味関心の方向性が絞り込めるようにする</p> <p>3年後期 三つのテーマのいずれかに興味関心の焦点を絞り、それぞれのテーマごとにグループ化してディスカッションを継続し、調査研究の方向性をよりシャープにする。具体的には、問題意識の所在を明確にした上で研究デザインを策定し、4年次に実施する本格的な調査研究の準備状態が形成できるようにする</p>		
テキスト	開講後に指示する。		
参考文献	その都度紹介する。		
成績評価の基準・方法	ゼミへの貢献度（50%）＋レジュメや態度等の発表内容（50%）により評価する。		
質問・相談の受付方法	ゼミとは、自ら考え発表し、質問や意見交換を行いつつ、相互支援関係を構築する場である。質問や相談は基本的にはゼミ時間中に行う。ただし個別の相談は随時受け付ける。		
履修要件	ゼミとは、興味関心を持ったテーマについて主体的に取り組むものである。当然、与えられるのを待っているだけでは調査研究は出来ない。教員から指示されなくても自ら調べ、問題意識を持ち、どうすれば良いのか等について考えることが出来る諸君の参加を希望する。なお、児童福祉やソーシャルワークに関する基礎知識があることを前提に議論が進むので、「児童・家庭福祉サービス」はもとより「相談援助の基盤と専門職 A・B」「相談援助の理論と方法 A・B」「相談援助演習 A・B・C」の単位を修得済みであることが望ましい。		
特別学生の履修の可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】		
その他	「卒業研究Ⅰ」をベースにして「卒業研究Ⅱ」へ移行することを考えているため、「卒業研究Ⅰ」と「卒業研究Ⅱ」は継続履修することが望ましい。		

科目名	卒業研究 I	開講時期	3年 通年
担当教員	岩井 宏	単位数	4
テーマ	医療・福祉に関連した物作り		
授業の概要と目的	<p>(1) 自走用の車いすの負荷特性を解析し、新しい車いすの開発を目指すための研究である。そのため、実験を行い数値的に負荷特性を明らかにし、フィードバックを行う。まず基礎事項として文献検索や特許、従来から行われている研究の学習を行う。</p> <p>(2) 障害を援助、学習するためのソフトウェアの開発を行う。詳細は相談の上、決定する。卒業研究 I では、基礎として開発に必要なプログラム言語の理解を行う。</p> <p>(3) 診療情報管理士の仕事として欠かせないコーディングの助けとなるデータベースの開発を行う。そのため、卒業研究 I では、コーディングでの問題点の解析を行う。</p>		
授業計画	<p>前期</p> <p>1～2 研究テーマ詳細の決定</p> <p>3～15 研究テーマのための基礎知識の習得</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計測について ・プログラムの基礎 ・コーディングの問題点の洗い出し <p>研究テーマによって異なる。</p> <p>後期</p> <p>16～30 研究テーマの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実験、データ整理、考察 ・プログラムの作成 ・コーディングのためのデータ構築 <p>研究テーマによって異なる。</p>		
テキスト	研究テーマにあわせたものを卒業研究中に指定		
参考文献	講義中適宜紹介する。		
成績評価の基準・方法	研究への取り組みと成果により評価する。 成果 60%、取り組み 40%		
質問・相談の受付方法	随時受け付けます。		
履修要件	<p>コンピュータを利用しての作業となります。コンピュータは基本的に各自のものを使用。</p> <p>(1) もの作りが好きな学生で、失敗にくじけず何度でも同じことをこつこつと繰り返し行える学生を希望。</p> <p>(2) はプログラミングであるため、プログラミング言語を1つとアルゴリズムを受講していることが望ましい。</p> <p>(3) は ICD-10 や ICD-9CM を用いたコーディングが出来ること。</p>		
特別学生の履修の可否	<p>科目等履修生 【不可】</p> <p>聴講生 【不可】</p>		
その他	(1) 実験は他の学生がいない時に行うため、放課後または長期休暇中に行う。		

科目名	卒業研究Ⅰ	開講時期	3年 通年
担当教員	横溝一浩	単位数	4
テーマ	卒業研究を進めるための基本的能力の習得		
授業の概要と目的	<p>前期は、文献講読を通して要約を作成することで、文献全体の構成・流れをつかみ、要約の作成を通して論文作成のための基本的な技術（事実の記述と意見・考えの陳述を区別）を習得する。</p> <p>後期は、自分の現在の問題関心・問題意識を確認し、テーマを具体化する。この一連の作業を通して、「考える」とは本当に「自分で考える」ことであったのか、生まれてこの方身につけさせられた価値基準を単純に適用することを「考える」と取り違えているのではなからうか、「自分なりの答」も、実は「他人の答」を自分で見つけた答のように思い込んでいるだけではないのか、改めて問い直したい。</p>		
授業計画	<p>前期 文献講読（文献はゼミ開始時に指定する）</p> <p>後期 卒業研究Ⅱに向けてのテーマ設定 以下の手順で各自の卒業論文のテーマの設定を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 問題意識・問題関心を確認する → 漠然としたテーマを設定する ② 漠然としたテーマをいくつかの具体的なテーマに分割・変換する ③ 具体的なテーマに対する現在の自分の考えを列挙する ④ 具体的なテーマをグループ化する ⑤ 問題の重要性、興味の程度を基準にして選択する 		
テキスト	なし		
参考文献	<p>清水幾太郎「論文の書き方」岩波新書</p> <p>大塚久雄「社会科学の方法—ヴェーバーとマルクス」岩波新書</p>		
成績評価の基準・方法	提出されたレジュメ、発表内容やゼミにおける発言などから総合的に評価する		
質問・相談の受付方法	<p>e-mailによる受付；随時受付（yokomizo@suw.ac.jp）</p> <p>直接、質問・相談する場合：研究室（201）にて授業・会議の空き時間に受付</p>		
履修要件	なし		
特別学生の履修の可否	<p>科目等履修生【不可】</p> <p>聴講生【不可】</p>		
その他	レポートと卒業論文の最も重要な相違点は、卒業論文ではテーマが自分で選択できるということです。ゼミを通して、皆さんの興味や関心を出来る限り引き出し卒業研究Ⅱにつなぎたいと考えています。		

科目名	卒業研究 I	開講時期	3年 通年
担当教員	三岳 貴彦	単位数	4
テーマ	福祉文化論、福祉レクリエーション、身体福祉論、社会福祉援助技術。		
授業の概要と目的	<p>上記テーマに沿って文献研究、発表、討論、報告書等の作成等、卒業論文作成の為に基礎的な素養を身につけることを主軸とする。</p> <p>そして、後期では 4 年次での卒業論文の作成の為に研究テーマと計画が設定できる迄を目標にします。</p>		
授業計画	<p>通年に於いて文献講読、レポートの書き方、レジュメ作成、ゼミ内発表、意見交換が行われる。又、卒業論文の作成の為に研究テーマと計画の設定についても実施する。尚、講義でのテーマなどについては受講生からの提案も考慮する。</p> <p>前期</p> <p>第 1 回～第 5 回 文献講読。</p> <p>第 6 回～第 10 回 文献講読、発表。</p> <p>第 11 回～第 15 回 研究テーマの検討。</p> <p>後期</p> <p>第 16 回～第 20 回 研究テーマ設定、報告。</p> <p>第 21 回～第 25 回 文献講読、発表。研究テーマの再検討。</p> <p>第 26 回～第 30 回 研究計画書の作成。</p> <p>又、受講生との提案、協議の上で施設見学等の実施を予定。 研究テーマの設定、研究計画書の作成の為に、別途個別指導を実施します。</p>		
テキスト	適宜紹介する。		
参考文献	適宜紹介する。		
成績評価の基準・方法	<p>授業中の態度、積極性。</p> <p>又、授業の中で実施されるレポート、プレゼンテーション等の課題。</p>		
質問・相談の受付方法	<p>授業、会議以外の空き時間であれば質問、相談に応じますが、事前に時間予約がある方が円滑です。場所は 508 研究室です。</p>		
履修要件	特に設けない。		
特別学生の履修の可否	<p>科目等履修生【不可】</p> <p>聴講生【不可】</p>		
その他	目的意識を持って主体的に取り組む事。		

科目名	卒業研究 I	開講時期	3年 通年
担当教員	田崎 裕美	単位数	4
テーマ	福祉や健康の視点から、食生活をはじめ、衣生活、住生活、生活経営を考える		
授業の概要と目的	健康で幸福な生活を送るために、福祉や健康の視点から、食生活をはじめ、衣生活、住生活、家庭経営（家族、生活時間、家庭経済、労働）の実態と課題について、演習を行うことで、現代の生活課題について研究する。		
授業計画	<p>受講生の人数や興味のあるテーマに基づき、下記の演習を行う</p> <p>前期： 1. オリエンテーション 2. 家政学と健康・福祉に関する基礎知識の講義（2回～6回） 3. 演習：基礎文献講読と先行研究調査等（7回～10回） 4. 研究テーマに関する基礎調査と発表（11回～15回）</p> <p>後期： 1. 研究テーマに関する文献等の講読（1回～4回） 2. 研究計画の策定と発表（5回～7回） 3. テーマに関する調査・研究、発表（8回～14回） 4. 卒業研究Iのまとめ（15回）</p>		
テキスト	中川英子・田崎裕美著「福祉のための家政学」建帛社		
参考文献	講義中に紹介します		
成績評価の基準・方法	出席状況と学習意欲、演習レポートから総合的に評価します		
質問・相談の受付方法	メールや口頭、文書での質問・相談には、随時応じます。授業終了後やオフィスアワー等に、研究室で対応致します。		
履修要件	家政学や健康関係の科目、子どもと食生活等の科目履修をしていることが望ましい。		
特別学生の履修の可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】		
その他	興味のあるテーマについて、意欲的、積極的な学習をしてください。演習では、フィールド・ワークとしての学外学習も予定しています。研究テーマは卒業研究IIへの発展を目指しています。		

科目名	卒業研究 I	開講時期	3年 通年
担当教員	武藤 裕子	単位数	4
テーマ	現代家族の理解と支援		
授業の概要と目的	さまざまな文献を読み、現代家族に対する理解を深める。		
授業計画	1、前期オリエンテーション 2、研究の目的と方法 3～14、輪読 15、まとめ 16、後期オリエンテーション 17、論文の書き方 18～29、発表、討論 30、まとめ		
テキスト	「アメリカの家族」		
参考文献	授業の中で紹介する。		
成績評価の基準・方法	レポート及び発表内容で評価する。(配点 50 : 50)		
質問・相談の受付方法	オフィスアワー		
履修要件	討論などに対する積極的な参加を求める。		
特別学生の履修の可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】		
その他	ボランティアを行います、参加は自由です。		

科目名	卒業研究 I	開講時期	3年 通年
担当教員	齋藤 剛	単位数	4
テーマ	自分なりの仮説を立てる。		
授業の概要と目的	研究の意義、基本的な方法について学びつつ、自分の興味関心に関する研究レビューおよび研究論文を読む。論文を読む中で、自分なりの研究課題を絞り、最終的にはそれに対する仮説を立てる。		
授業計画	<p>1～5 研究の意義、研究方法について輪読をする。</p> <p>6～15 本研究室における研究内容に関する研究レビューを輪読する。</p> <p>16～21 自分なりの研究課題を決め、それに関する文献を3本以上読む。</p> <p>22～24 数本の論文をまとめてレビューする。</p> <p>25～30 文献をまとめて、仮説を発表する。</p>		
テキスト	適宜資料を配布する。		
参考文献	必要に応じて紹介する。		
成績評価の基準・方法	文献発表の完成度（50%）と仮説についての小論文（50%）で評価する。		
質問・相談の受付方法	月曜日以外に 305 研究室に直接来て頂くか、 tsaito@suw.ac.jp までメールを送ってください。		
履修要件	特になし。		
特別学生の履修の可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】		
その他	特になし。		

科目名	卒業研究 I	開講時期	3年通年
担当教員	船城 秀樹	単位数	4単位
テーマ	認知症の介護方法等を探究する		
授業の概要と目的	<p>概要としては、3年次、4年次の2年間の期間で取り組む。3年次は、1,2年次での学びや体験を整理しつつ、文献研究を中心に学びを進める。4年次は、認知症の高齢者への実際の生活支援活動を通じて事例研究としてまとめる。</p> <p>目標としては、将来、認知症の介護に携わる介護職員としての広範な基盤を培う。</p>		
授業計画	<p>4月～5月 実習等での経験等の発表、関心の明確化</p> <p>6月～7月 関心に即した事例検討</p> <p>9月～10月 文献の探索</p> <p>11月～12月 文献研究</p> <p>1月～2月 テーマの明確化</p> <p>3月 フィールドワーク</p>		
テキスト	『認知症介護実践研修テキストシリーズ3 図表で学ぶ認知症の基礎知識』 中央法規出版		
参考文献	講義中適宜紹介		
成績評価の基準・方法	以下の割合で評価 出欠状況：受講態度＝50：50		
質問・相談の受付方法	講義終了後、教室あるいはオフィスアワー等で随時受け付ける		
履修要件	特に設けない		
特別学生の履修の可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】		
その他	予習、復習に努めてください		

科目名	卒業研究Ⅰ	開講時期	3年通年
担当教員	杉田與志子	単位数	4
テーマ	介護過程の展開を通して介護の方法を探究する		
授業の概要と目的	1年次、2年次に介護実習で経験したり、気づいたりした介護に関する課題について、文献講読および発表等グループ学習を通して知識・考察力を高める。また後半では卒業研究Ⅱに向けての文献学習および生活支援活動の準備に取り組む。		
授業計画	<p>前期</p> <p>1 オリエンテーション</p> <p>2～3 意見交換により介護実習体験を共有する。</p> <p>4～5 グループ学習のテーマ決定。</p> <p>6～15 ・テーマに関係するテキストや参考文献を探し読む ・内容をまとめ発表、意見交換。</p> <p>後期</p> <p>16～30 ・個人のテーマあるいは仮テーマを決定する。 ・文献学習・生活支援活動の準備（研究計画書・介護過程の再検討）に取り組む。</p>		
テキスト	特に指定しない		
参考文献	適宜紹介する。		
成績評価の基準・方法	授業への取り組み姿勢・討論での発表・研究への取り組み・出席状況などから評価する。		
質問・相談の受付方法	随時受け付けます。		
履修要件	介護実習Ⅰ・Ⅱの履修終了者		
特別学生の履修の可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】		
その他	生活支援活動の場として、介護保険施設への協力依頼については学生と共に教員がサポートします。		

科目名	卒業研究 I	開講時期	3年 通年
担当教員	中野 一茂	単位数	4
テーマ	卒業論文を覚ための知識を身につけ、卒業研究のテーマを考える		
授業の概要と目的	卒業論文を書くための事前知識を習得し、テーマを設定し そのために必要な基本文献を集める。 社会福祉、介護福祉全般、または NGO、NPO、ボランティアを中心とした実践論の基礎知識を習得する。		
授業計画	前期については、ゼミ全体で文献の輪読、発表を中心に行い 個々のテーマについては、検討を行い、後期は個々に 研究テーマの設定、文献検索、研究手法の検討等を行っていく。		
テキスト	必要に応じて指定		
参考文献	必要に応じて指定		
成績評価の基準・方法	授業態度 課題達成度		
質問・相談の受付方法	随時、受け付けます。		
履修要件	積極的にゼミに参加することと役割分担を確実に遂行することが基本条件です。		
特別学生の履修の可否	科目等履修生 【不可】 聴講生 【不可】		
その他			

科目名	卒業研究Ⅰ	開講時期	3年通年
担当教員	徳山 美知代	単位数	4
テーマ	子どもの発達臨床心理学、教育相談、教育心理学、コミュニティ心理学、グループアプローチを中心に、自身の研究テーマを設定する。		
授業の概要と目的	<p>情報収集、文献購読、グループワークを通して研究テーマを設定し、論旨をまとめて発表できるようにする。</p> <p>① 自身の研究テーマを見つける。 ② 論文やレポートの作成方法を学習する。 ③ 発表を通して、プレゼンテーションのスキルを高める ④ 論文作成のための学習を通して、文章読解能力、文章表現能力、論理的思考能力、コミュニケーション能力を高める。</p>		
授業計画	<p>1. オリエンテーション 2. 研究の方法と論文の書き方 1 3. 研究の方法と論文の書き方 2 4～14. 発表、討議、講読 15. まとめ 16. 後期オリエンテーション 17～29. 発表、討議、講読 30. まとめ</p>		
テキスト	特になし		
参考文献	随時紹介		
成績評価の基準・方法	<p>授業への取り組み・貢献度 50%</p> <p>発表・レポート 50%</p>		
質問・相談の受付方法	授業後、およびオフィスアワーに研究室にて受け付けます。		
履修要件			
特別学生の履修の可否	<p>科目等履修生【不可】 聴講生【不可】</p>		
その他	自ら積極的に、一生懸命に取り組むこと、真摯に自身に向き合い、最後まで粘り強く取り組むことへの責任の基に受講してください。		

